

# 令和 6 年度 事業報告（案）

## 施設名 小金井市障害者地域自立生活支援センター

### 1 総 括

令和 6 年 4 月より相談員支援専門員 4 名体制（センター長、保健師兼務）でのスタートとなり、前年度に引き続き業務の整理と分掌を進めました。業務点検も含めて毎朝、当日の業務の確認やケースの進捗状況を確認し、必要に応じてその場で打合せをおこない、それぞれが相互に業務点検をおこなえる体制づくりを推進しました。

小金井市自立生活支援課と連携し、困難ケースへの対応や障害者虐待防止センター業務を通して、必要な障害福祉サービスの受給へとつなげる調整をおこないました。その過程で各関係機関や事業所と連絡を密にし、円滑な連携が実現できるような関りを意識しました。

### 2 重点目標の取り組みと来期の課題

#### 1) 基幹相談支援センターとして地域のニーズに応える取り組みを強化します。

##### 【目標】

基幹相談支援センターや地域生活支援拠点として求められる機能の中でも、障害福祉サービスを利用されていない方への支援と、困難事例への介入や助言等をおこない、対象者が適正な支援を受けることができるよう障害福祉サービス等の調整をおこないます。

##### 【取り組み状況と結果】

日々の支援センターへの問い合わせや、障害者虐待防止センター業務から障害福祉サービスの受給ができるよう支援をおこない、それぞれが必要な支援を受けることができるよう調整を図ってきました。そのために相談支援体制を強化する目的で、地域内外の難病や高次脳機能障害、発達障害等の各種連絡会や研修会へ積極的に参加しました。専門的な知識を深めるとともに、多くの地域の支援者が集まる場で情報交換等をおこなうことで知見を広げ、地域の困難なケースや虐待案件に積極的に介入することにより、行政や他の支援者とのつながりを作り、日々の相談業務に幅を持たせるよう意識して対応してきました。

その結果として、あらたに障害福祉サービスの新規申請からサービス導入までを支援することができたケースが増えつつあります。

また、相談支援従事者研修の演習指導者や地域実習の受け入れをすることで、地域の相談支援に関わる人材育成を推進しました。演習指導や実習指導を通して、自身の業務や考え方の振り返りと確認の機会にもなり、相談支援業務に良い影響をもたらすことができました。

##### 【今後の課題】

令和 7 年度は 3 名体制でのスタートとなりました。うち 1 名は相談支援専門員の研修を未受講なので、相談支援体制の強化と整備のために、業務に携わりながら受講のための準備を進めます。

また、地域の相談支援事業所や居宅介護事業所の人材不足が深刻化していることも地域課題であることを考え、前年度から引き続き相談支援従事者研修における地域実習の受け入れや、移動支援、行動援護、同行援護の研修の企画と運営をおこない、一人でも多く福祉に携わる人

材を増やすことを目的に実施していきます。

現在、障害福祉サービスを利用されている人たちの支援体制の現状に適正化を引き続き推進していきます。

### 3 申出のあった苦情の対応

| 申立月 | 苦情の内容 | 対応と結果 |
|-----|-------|-------|
| なし  |       |       |

### 4 発生した事故の内容

| 種別      | 件数  | 摘 要   |
|---------|-----|---|
| 書類の誤送信  | 1 件 | 自立生活支援センターと契約をしている利用者でもあり、障害者福祉センターの生活介護の利用者でもある A さんのご家族との文書のやりとりを生活介護の連絡帳を活用しているが、支援センターの相談員が準備した返信用の封筒の宛名が相談員の名字だけの記載となっており、たまたま相談員と同じ苗字の生活介護利用者である B さんのお宅へ届いてしまった。B さんご家族からの連絡で発覚した。A さん B さん両ご家族へ謝罪するとともに、再発防止策を支援センターと A さんご家族とで検討。郵送が一番と思われたが、A さんご家族はこれまで通りの連絡帳を活用する方法を希望されたため、返信用封筒の宛名に事業所名と相談員名を省略せず明記することとした。また、連絡帳を活用してやりとりをする際は、生活介護の責任者に話を通し生活介護スタッフに周知してもらえるよう依頼する。 |
| メールの誤送信 | 1 件 | 市役所に書類をメール送信したが、別の人物にも誤って送信してしまった。他の職員によるメールの文面や送り先の確認を終え、送信した。その後、送信した旨を報告する為に市役所に架電をした際に、誤送信を指摘された。<br>誤送信した相手へ何度か架電したが繋がらず、メールにて取り急ぎお詫びをしたとともに、留守番電話にもメッセージを吹き込んだ。最終的に送信する前に、宛先や内容、添付ファイルなど再度間違いがないか確認することで再発を防止する。  |

### 5 職員体制（令和 7 年 3 月 31 日）

| 職種                 | 常勤職員 | 非常勤職員 | 常勤換算数 | 法令配置数 |
|--------------------|------|-------|-------|-------|
| 管理者                | 1    | -     | 1     | 1     |
| 相談支援専門員<br>(保健師含む) | 4    | 1     | 5     | 3     |
| 合計                 | 5    | 1     | 6     | 4     |

## 6 研修の実施状況

### 1) 施設内研修

| 研修名・テーマ | 講師  | 参加職種    | 開催時期 | 延人員 |
|---------|-----|---------|------|-----|
| 虐待防止研修  | web | 相談支援専門員 | 随時   | 4   |

### 2) 施設外研修

| 研修名・テーマ                                 | 主催                  | 参加職種    | 開催時期  | 延人員 |
|---|---------------------|---------|-------|-----|
| 東京都相談支援従事者等<br>研修演習指導者養成研               | 東京都心身障害者<br>福祉センター  | 相談支援専門員 | 6月～2月 | 1名  |
| 成人期発達障害者支援力向上<br>研修                     | おとな TOSCA           | 相談支援専門員 | 7月    | 1名  |
| サービス管理責任者更新研修                           | 東京都                 | 相談支援専門員 | 9月    | 1名  |
| Q-SACCS を活用した地域診断                       | おとな TOSCA           | 相談支援専門員 | 10月   | 1名  |
| 基幹相談支援センターにおけ<br>る精神障害への対応や相談体<br>制について | 東京都                 | 相談支援専門員 | 11月   | 1名  |
| 障害者福祉施設従事者による<br>等による障害者虐待対応研修          | 公益財団法人東京都<br>福祉保健財団 | 相談支援専門員 | 2月    | 1名  |

## 7 サービス単位ごとの年間利用者延べ総数

| 区 分            | 利用者延べ数  |
|----------------|---------|
| 指定特定相談支援事業契約者数 | 35 件    |
| 指定一般相談支援事業契約者数 | 0 件     |
| 年間相談件数         | 5,538 件 |
| 虐待対応中件数        | 26 件    |

## 8 行事の実施状況

| 実施月日   | 行事名               | 参 加 者 |     |     |     |
|--------|-------------------|-------|-----|-----|-----|
|        |                   | 利用者   | 職 員 | その他 | 計   |
| 9月4日   | 高次脳機能障害者支援体制整備講演会 | 0名    | 4名  | 45名 | 49名 |
| 11月16日 | 難病者支援体制整備講演会      | 2名    | 5名  | 8名  | 15名 |
| 1月29日  | 権利擁護・虐待防止講演会      | 0名    | 4名  | 17名 | 21名 |